

11歳(小学5年生)からの英語を さらに効果的に

小中の連続した「英語教育」を意識して〈ゆるやかな接続〉

京都市立花背小中学校 浦 一夫



全国の多くの小学校(特に5,6年生担当)では、新学習指導要領の「小学校外国語活動」の新設により、指導計画、教材、指導法・指導者等々に関して、昨今、その対応や実施方策の検討に追われ始めている。まさに「授業そのもの」をどうするのか、である。中学校(特に1年生担当)においては、小学校外国語活動を踏まえての授業の在り方「小と中の接続」をどうするのか、「小」からの学習意欲をさらに高め、「中」における学力向上の取り組みについて等々、模索が続いているのではないだろうか。

本校(小中一貫教育校)の現在の取り組みと、今後、改善が必要であろう点について述べてみたい。今や、「11歳からの英語教育」が始まった、と私は思っている。

1 ■ 本校の小学校外国語活動 (中学校英語学習に接続)

小中一貫教育校としてスタートして3年目となる本校では、学習の柱の1つとして「英語教育」を置いている。9年間のスパンを4つに区切り、独自の系統的な一貫カリキュラムを作成し、可能な限り円滑な接続を意識した取り組みを展開している。

特にⅡ期の充実を図るためには、新学習指導要領に設定された小・中の「目標」の違いを理解した上で、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」という共通点に視点を置き、連続した効果的な「英語学習」のために日々の授業改善・工夫を推進すべく積極的な研究を行っている。

I期A (1, 2年生)	聴理解段階・初期発話段階
I期B (3, 4年生)	
Ⅱ期(5, 6, 7年生)	発話表出段階
Ⅲ期 (8, 9年生)	課題解決段階

2 ■ 具体的実践例

(中学校英語科教員・上田信子が主導)

歌やチャンツは毎時間のウォームアップとして習慣化し、語句やセンテンスの扱いによってゲームを通しての指導や「絵本読み聞かせ」等も行う。以下は秋に実施した6年生の授業である。

単元目標：絵本の読み聞かせを通して、物が置かれている位置についての表現に親しむ。

第1時：絵本『Spot's Birthday Party』の読み聞かせやゲーム活動を通して部屋の中の品物を英単語として知る。

第2時：第1時と同じく読み聞かせを通して、物が置かれている位置を表す表現を理解し、ゲーム活動を通して物が置かれている位置を表現することに慣れ親しむ。

第3時：絵本『Where's Spot?』の読み聞かせにより、前置詞の使い方を確認。自分の部屋を作成し、発表に向けた練習を行う。

第4時：前置詞句を用いた表現で物の位置を伝える発表、それを聞いて理解する活動を行う。

①英単語(名詞のみ)を聞いて絵カードを合わせる

②前置詞句を聞いて絵カードを合わせる

③ゲーム「Simon Says」Simon says, hands on your head. (ほか, in your desk, under the desk, behind you などを用い前置詞句に注意させる)

④絵本『Where's Spot?』を読み聞かせながら英語でのやりとり

⑤I have a ~ in my hand. I have a ~ under the sofa. など、前置詞句を用いた表現で物の位置を伝えたり、発表者の英語を聞

く活動・練習

⑥チャンツ

〈教材と指導〉

位置を表す前置詞句は、中学校教科書では1年生中後期に学習する内容である。文の構造上から戸惑いが心配されるが、1つのかたまりとして視覚（絵や実物）と音声の両面アプローチによれば、理解するにさほど無理があるとは思えない。様々な使用場面は中学校教科書で学習することになるが、この段階で、音として習得（親しむこと・オーラル活動）することで、英文をつくる際の語順の誤りが大幅に減少することが期待できる。そして、コミュニケーションの方法に膨らみができ、意欲の増大に繋がっていくものと考え。このような指導の積み上げによって、文化祭での暗唱や寸劇に取り組み、中英研主催の学習発表会にオープン参加で小学校団体として出場することもできた。

〈授業展開〉

中学校英語科教員の主導によることで、英語学習に必要な指導が可能になり効果的になると考える。①英語を使った授業をスムーズに行うことができるし、必要に応じて日本語での指導が可能である。②中学校の学習内容がわかっているので、1年生でのつまづきやすい点は留意しての指導ができる。③ALTとの打ち合わせに手間取らず、TT授業の充実が図れる。など、当然ながら効果的な要素は多い。さらに、小学校学級担任との協働授業によって、英語活動（英語学習）における充実が図られ、子どもたちにとって自然な活動となり将来の英語学習に効果的に接続されていく。

〈特色・成果〉

本校では文字指導を行っている。子どもたちにとって無理のない程度に段階を経ながら少しずつ深めている。ローマ字学習と関連させながらフォニックス学習を通して音と文字の関係に興味をもたせ、楽しく文字・単語が学べるように配慮している。彼らは音と文字の関係をそれほど難しいとは思っていないようで、むしろ文字・単語を見ると読もうとする場面が増えてきているのが6年生学年末の検証結果として分かる。アルファベットと音の関連について音楽等を活用しながら指導してきた成果であろう。リスニング領域でも、興味・関心が比較的高く、効果のほどが見られた。7年

生（中学1年生）は、2年間の本校英語活動を経験し、現在、意欲的に英語学習に取り組んでいる。

3■連続した「英語教育」を意識して

今、小学校英語に関する様々な調査が行われている。ある調査では、一般の小学校教員の8割以上が学級担任として単独で指導することに不安を抱えているという*1。教材・教具の開発がされたり、教員研修の充実が図られてはいるが、やはり、専門分野ではないので自信が持てないというのも無理からぬことであろう（小学校学級担任としての役割が重要であるとはいうものの）。また、中学生の約半数が入学前から英語が嫌いだったり、楽しみにしていなかったりしているというまとめもある*2。これからの英語教育に厳しさを感じてやまない。このような現状ではあるが、本市教育委員会では英語活動主任対象の研修会を多数開催、各校では校内研修の充実が図られている。また、支部行政区ごとに設置されている小学校英語活動拠点校での授業研修も進められ、中学校英語科教員の参加も少しずつ増加、さらに、小英研と中英研との合同ミーティングを始めとして、連続した「英語教育」推進の機運も次第に高まりつつある。

○学習者からすれば、教室で英語音を初めて聞いた時がスタート時点であり、すでに英語の学習は始まっていると感じてもおかしくはない。

○「小」で時間をかけた分、「中」での学習をこれまで以上に効果的なものにするためには、「小」での活動が「中」での学習を見通した指導であらねばならないだろう。

小中一貫の英語教育とはいわないまでも、ここしばらくは、「5・6・中1一貫英語教育」、もしくは「5カ年一貫カリキュラム」の具体的取り組みを構想し、効果的な「英語教育」を推進したいものである。初めて「英語」に出合った子どもたちが興味をふくらませ、その後、「英語」に対する抵抗もそれほど感じることなく、「英語学習」への関心・意欲が高まっていく状態をつくること、すなわち、〈ゆるやかな接続〉で中学校の「英語学習」が充実し、効果的な「英語教育」がなされることを私たちは皆願っているのである。

*1 『内外教育』2009年7月14日 pp.2-3

*2 同2009年8月25日 pp.2-3